

紅葉の森を散策しよう

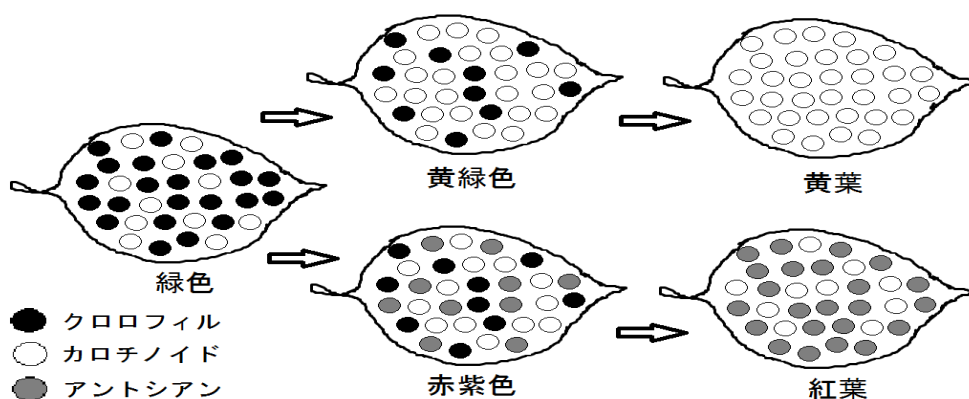
紅葉は冬をむかえる木々のひとときの姿です。

紅葉前線は北から南へおよそ50日で通り過ぎていくと言われています。北海道では標高の高い大雪山から始まります。北海道の紅葉の特徴は黄色が主体で赤色が少なく、本州の赤を代表するイロハモミジは自生していません。黄葉するシラカンバ、ダケカンバ、ヤチダモ、ハリギリ、イタヤカエデ、ハルニレなどの樹種が多く、赤くなるのはエゾヤマザクラ、ツタウルシ、ナナカマド、ヤマブドウなどで、数の上では黄葉する木におよびません。しかし常緑の針葉樹の緑と落葉広葉樹の黄色、赤のコントラストは北海道らしい紅葉と言えます。

紅葉のしくみ

紅葉とは、落葉に先立って葉が色づくことで、狭い意味では赤や橙に色付くことを紅葉と呼び、黄色くなることは黄葉と呼びます。また褐色になることを褐葉と呼ぶこともあります。現実にはこれらを厳密に使い分けるのは困難で、まとめて紅葉と呼びます。

紅葉のイメージ



紅葉

秋になると葉を落とす準備のため、葉柄と枝の境に離層と呼ばれる層ができます。この層ができると光合成でつくられた糖分は移動が妨げられて葉に蓄積し、一方葉は老化して葉緑素（クロロフィル）が壊れてアミノ酸になり、これらからアントシアンという赤色の色素が合成されます。アントシアンの合成には日光も関係しており日当たりがよいほど赤くなるのが紅葉です。

黄葉

樹木の葉は葉緑素（クロロフィル）という緑色の色素とカロチノイドという黄色の色素をもっていますが、クロロフィルの量がずっと多いので、ふだんは緑色に見えます。秋が深まると、まず先にクロロフィルが分解されて、カロチノイドが残るため、葉が黄色く見えます。これが黄葉です。落葉樹の大半は多少なりとも黄葉します。

褐葉

仕組みは紅葉と同じで、アントシアンの代わりにタンニン系の物質ができて褐色になる現象です。はじめ黄色くなってから褐色を帯びることが多くその過程で橙色っぽく見えることもあります

*色づかない木

樹木の中にはあまり色づかず落葉するハンノキ、ハリエンジュなどもあります。

紅葉が美しい樹木

紅葉	黄葉	褐葉
オオモミジ、エゾムラサキツツジ、ナナカマド、アズキナシ、マユミ、ニシキギ コマユミ、オオカメノキ、ハウチワカエデ、メギ、ツリバナ、エゾヤマザクラ ツタウルシ、ヤマウルシ、ヌルデ、カラコギカエデ、ヤマブドウ	イチョウ、カンボク、コブシ、クロビイタヤ、イタヤカエデ、カツラ、アカイタヤ、カラマツ、シラカンバ、ダケカンバ、ポプラ、シナノキ、オオバボダイジュ、ヤチダモ、プラタナス、ユリノキ、ハルニレ、オヒョウ、エゾエノキ、ハリギリ、ツルウメモドキ ニガキ、キハダ、ヤマグワ コシアブラ	ホオノキ、クヌギ クリ、ミズナラ ブナ

紅葉と気象

- * 夏から秋にかけての日照時間が多いほど、紅葉は鮮やかになるといわれています。理由は葉がよく成長することと、葉を赤くするためのアントシアンがより多く合成されるためです。
- * また一日の寒暖差が大きいことも美しい紅葉には必要です。一般には最低気温が8度以下になると葉が色づきはじめ、5度以下になるとぐんと進むと言われています。標高が高いほど、海沿いより内陸部、平野より盆地が寒暖差大きくなりますから、紅葉も美しくなります。
- * もう一つ欠かせないのが湿度です。空気中にある程度の湿度が保たれている方が葉は美しく、雨が少ないと枯れてしまいます。十分な湿度が確保されている滝や湖の近くなど水辺ではより紅葉が美しくなります。

「遅くなっている紅葉」

ちょっと気になるデータを紹介します。1950年から60年間の状況を調べてみると全国的にカエデの紅葉が16日遅くなってきています。10月になっても気温が下がらず、どんどん気温が上がってきており、春と秋の気温が顕著に高くなってきているのが地球温暖化の大きな特徴のひとつだと言われています。その結果紅葉のピークも後ろにずれ込んできているのです。

(参考文献)

紅葉ハンドブック 文一総合出版

もっと知りたい森と木の話 公益社団法人 北海道森と緑の会

faura No49

文責 菅美紀子

今後の観察会予定

10月15日(日) 10:00~12:00	ワオーの森観察会 春香山登山口(小樽市桂岡) 集合
10月22日(日) 10:00~14:30	晩秋の森観察会 志文別コース 自然ふれあい交流館集合
11月 5日(日) 10:00~12:30	秋のありがとう観察会 自然ふれあい交流館集合
11月23日(木) 10:00~12:30	西岡水源地自然観察会 西岡公園管理事務所集合